

吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和元年度進捗評価（検証）及び令和2年度取組予定

基本目標	基本的方向	令和元年度 主な取組状況	令和2年度 主な取組予定	評価 ※1					
					H27	H28	H29	H30	R 1
企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち	(1) 北大阪健康医療都市における国際級の複合医療産業拠点の形成	○国立健康・栄養研究所が入居予定のアライアンス棟の整備・運営事業を行う優先交渉権者を決定した。 ○健都レールサイド公園と健都ライブラリーの一体的な管理運営のもと、多様な健康づくりプログラム等を展開する指定管理者を指定した。	○健都での複合医療産業拠点の形成に向け、引き続き、健都イノベーションパークの進出事業者の募集・選定を進める。 ○健都内の各事業主体や医療・健康関連の企業・研究機関、大学、地域住民等と連携した健都ならではの健康づくり等に関する取組の創出に向けたプラットフォームの構築を目指す。						
	(2) 市内への企業移転・進出による地域産業の活性化	○国及び大阪府との連携による企業誘致の取組として、成長特区や地域未来投資促進法の活用を行っている。また、商工会議所と連携しながら、新たな立地企業の情報を得て、企業誘致推進施策のPRに努めている。	○令和2年度は新たに2件の企業誘致を見込んでいる。引き続き企業訪問や大阪府、商工会議所等から情報収集し、地域経済の循環と活性化に資する企業誘致及び環境と調和のとれた都市型工業の推進を図る。	A	2	2	3	3	3
	(3) 創業促進や企業の成長支援による雇用の創出	○第2期吹田市創業支援等事業計画（計画期間：令和元年度～令和7年度）を策定し、前期計画の目標（年60人）を超える目標（年80人）を設定した。この計画に基づき、地域経済の循環と活性化に資する創業支援及び事業者の定着に取り組んでいる。 ○大阪府事業承継ネットワークに参画し、情報収集や研修の受講等、支援体制の強化に取り組んでいる。	○支援施策や創業支援機関の積極的な周知に取り組むとともに、学びや交流の場の提供や継続的なフォローアップにより事業継続を支援する。 ○企業訪問等により、市や国等の施策の情報を提供するとともに、事業者の課題や要望、ニーズの把握に努めて、特に、ビジネスマッチングや事業活動に対する支援機関への橋渡しを行い、事業の安定化に向けた支援を行う。	B	3	3	2	2	2
	(4) 魅力ある商業地づくり	○商店会が実施する催しや商店街の空き店舗を活用したチャレンジショップに対して補助を行った。	○商店街の魅力向上、来街促進に繋がる空き店舗活用や、集客に結びつくような新たな事業を活用し、商工会議所とも連携しながら具体的な支援を行う。	C	-	-	-	-	-
「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち	(1) 都市魅力の強化と戦略的な情報発信	○「吹田市シティプロモーションビジョン」に基づき、市民にとって市への愛着や誇りが醸成される取組を実施した。具体例として、市民参加型をキーワードに、市民アンケートをとりデザインを決めたすいたん靴下の作成及び販売や、卓上カレンダー「すいかレ2021」の作成に向け、Instagramを用いて市内の写真を募集した。 ○情報発信プラザでは観光案内や情報発信のほか、月ごとに本市の特性を紹介する展示フェアを開催した。 ○Gステージ及びスタジアム内4Fバックスタンド側看板（1枚）に「吹田市」と掲出するとともに、第4ゲートを「すいたんゲート」とするネーミングライツの契約を締結した。	○吹田市シティプロモーションビジョンの改訂に向けて、社会情勢等の変化に対応し、新たに目指すべき市の方向性を見極めるための取組を進める。 ○本市の多彩な魅力を発信する拠点として、引き続き市の魅力に関する展示フェアや、観光情報等の充実に努める。 ○本市を挙げてガンバ大阪を応援する機運を盛り上げ、ホームタウン意識や「ガンバ大阪のあるまち」としてのふるさと意識の醸成を図るため、市民ふれあい事業やガンバ大阪ホームゲームへの無料招待事業等を実施する。	D	-	-	-	-	-
	(2) 環境に配慮した快適で機能的なまちづくり	○交通バリアフリー道路特定事業計画に基づき、令和元年度は3地区でバリアフリー化を実施した。 ○千里南公園において、民間事業者によるカフェが平成31年2月27日にオープンし、多世代の市民が公園を訪れ、みどりの中の新たなコミュニティ空間を創出している。更なる本市の都市公園等の魅力向上に向けて、「都市公園等整備・管理方針」の策定に取り組んでいる。 ○「吹田市電力の調達に係る環境配慮方針」に基づき、平成29年度から、再生可能エネルギー比率の高い電気を供給する等、環境に配慮した小売電気事業者からの電力調達を開始した。平成30年度から、対象施設を拡大し、高圧電力及び低圧電力の調達を実施している。	○引き続き、交通バリアフリー道路特定事業計画に基づき、歩道のバリアフリー化を実施する。 ○本市の主要な都市公園等の魅力向上に向けて、整備や管理のあり方等必要な検討を進める。 ○公共施設の新築・改修の際は、積極的に再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等を導入する。	A	1	4	4	4	3
				B	5	2	2	2	3
				C	-	-	-	-	-
				D	-	-	-	-	-

※1 評価について

A：目標達成に向け取組が進んでいる又はKPIが前進している

B：目標達成に向け取組の強化が必要又はKPIが後退している

C：方針、具体策等を検討中

D：未着手又はアクションプランの見直しが必要

基本目標	基本的方向	令和元年度 主な取組状況	令和2年度 主な取組予定	評価 ※1					
					H27	H28	H29	H30	R 1
就職・子育ての希望が かない、未来を担う人材が育つま ち	(1) 若者の地元就職への支援と働きやすい環境の整備	○本市と雇用対策協定を締結する大阪労働局と、市内事業所との繋がりが強い吹田商工会議所と連携を図り、市内企業と大学生をはじめとする若者とのマッチングの場を設け、本市での就職を促進させるイベント「吹田市わかもの就職説明会・面接会」を実施し、市内を含む近隣市の学生等に対する市内企業の認知度を深めることができた。	○就職活動において売り手市場の状況であるとともに、学生の大企業志向は依然高い状況であるが、今後も引き続き、大阪労働局や大学及び商工会議所と連携し、企業説明会や就職面接会を実施することで、市内外の学生や若者に対し、市内企業の魅力を情報発信するとともに、マッチングの創出を図り、市内企業への人材供給の一助となるよう取り組む。						
	(2) 子育てしやすい環境の整備	○保育の担い手を確保するため、新たに吹六留守家庭児童育成室の運営業務委託を実施できるよう令和元年度は準備を進め、児童の健全育成を図った。 ○認可保育所を令和元年6月に1園、7月に1園、10月に1園を創設した。また小規模保育事業所等を、平成31年4月に2か所を開所した。 ○令和2年3月に策定した子ども・子育て支援事業計画（第2期）では、教育・保育の確保方策として保育所整備等を盛り込んだ。	○新型コロナウイルス禍の中、児童・見守りボランティアが安心・安全に参加できるように、「太陽の広場」「地域の学校」活動中の感染予防マニュアルを作成して、会議による説明とブロックアドバイザーの巡回強化により学校と地域と調整をして再開を目指す。 ○令和2年度中に、認定こども園1園の増築による定員増を予定している。	A	1	6	6	6	6
	(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	○令和元年10月1日より、特定不妊治療の経済的負担の軽減を図るために、府の助成対象外となる所得要件の方（夫婦所得合計が730万円以上）延べ58人に特定不妊治療費の一部助成をした。 ○産後家事支援事業の委託事業所数を増やすために、市内の居宅サービス事業所に直接、説明・協力依頼を行い、その結果、委託事業所数の増加と各事業所の登録ヘルパー数の増加が実現し、利用者数が昨年度より倍増した。	○令和2年4月より出生連絡票を電子申請システムでも受付を開始し利便化することで、より多くの出生児を把握し、新生児訪問の実施件数の向上を図る。 ○多胎児家庭の支援を強化するために、令和2年4月より産後ケア事業の利用期間を4か月未満まで拡大する。また、今後、産後家事支援事業の支援内容に育児支援の追加も検討する。	B	7	3	3	3	3
	(4) 未来を拓く教育の充実	○全小学校36校が教育課程特例校となり、小学校1年生から外国語活動を実施している。 ○小・中学校ともに英語指導助手を派遣し、児童・生徒が主体的にネイティブスピーカーに関わることで、コミュニケーション能力の育成と英語力の向上を図った。	○令和2年度から英語指導助手を増員し、各中学校ブロックの学校規模により1～2名の配置を行うことで、児童・生徒がネイティブスピーカーの発音に触れる機会を増やす。	C	1	-	-	-	-
誰もが安心して暮らせる「幸齢社会」が実現するまち	(1) 健康・医療のまちづくりによる健康寿命の延伸	○高齢者向けウェルネス住宅（patona吹田健都）が令和元年11月に竣工。令和2年2月からサービス付き高齢者向け住宅の入居が開始するなど、各事業について順次実施。同施設では、生活コーディネーターが配置され、施設内外の関係機関との連携体制を構築中。 ○健都ライブラリーと健都レールサイド公園を一体的に活用し、市民の健康増進を図る取組みを進めるために、ライブラリーと公園を一括管理する指定管理者の選定を令和元年度に実施した。	○健都内の各事業主体や医療・健康関連の企業・研究機関、大学、地域住民等と連携した健都ならではの健康づくり等に関する取組の創出に向けたプラットフォームの構築を目指す。 ○吹田市立健都ライブラリーの建設工事を完了させ、令和2年11月に供用開始。 ○健都ライブラリーの供用開始時には、健康医療関連図書約5,000冊を収蔵する。供用開始後は、健都レールサイド公園や近隣の医療関係施設等と連携した健康増進を図る取組を進める。						
	(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり	○令和元年度にふれあい交流サロンを1か所新たに整備し、計7か所となった。また、ふれあい交流サロンにおいて、新たに設定した項目に沿った介護予防の取組を実施するよう働きかけを行い、既存のふれあい交流サロンも含め5団体が週1回以上実施するようになった。 ○地域保健福祉センター3か所において直営で実施していた地域包括支援センター業務を民間事業者へ委託した。	○令和2年度にふれあい交流サロン運営団体を新たに5団体公募する。また、ふれあい交流サロンにおいて、新たに設定した項目に沿った介護予防の取組を実施するよう、引き続き働きかけを行う。 ○認知症高齢者が行方不明になった際に見守り事業者が高齢者の特徴をFAX送信する事業を、令和2年8月から「みまもりあいステッカー」による個人識別IDと「みまもりあいアプリ」を活用した、見守り事業者や市民等が捜索に協力する事業に変更し、認知症高齢者等の迅速な安全確保と、その家族の精神的負担の軽減を図る。	A	6	7	11	11	11
	(3) 地域コミュニティの強化による安心安全のまちづくり	○地域支援では、地域との連携を図り、防災力の向上を目的とした合同防災訓練で、情報収集・伝達体制の強化を図った。また、地域防災力向上を目的とした防災リーダー育成講習の他、防災リーダー育成講習を修了した人を対象にフォローアップ研修を実施した。また、自主防災組織結成支援を行い、単一自治会等で7組織が結成され、防災用資機材等を給付する側面的支援を実施した。	○避難所運営マニュアル作成指針については、災害経験等を踏まえ見直しの検討を継続し、訓練等で検証しながら各施設に応じたマニュアルとなるよう作成・改訂作業の支援を行う。また、コロナ禍における避難所運営マニュアルの充実を促進する。	B	6	6	2	2	2
	(4) 市民ニーズの変化に応じた都市の形成	○平成30年度に空家等実態調査を行った。 ○令和元年度に空家等対策計画を策定し、指導方針等を定めた。	○都市再生特別措置法の改正を受け、「防災指針」を追加予定 ○北摂7市3町の相互利用については、健都ライブラリーの供用開始に伴い、利用できる吹田市内の図書館が9館から10館へ増加する予定。	C	1	-	-	-	-
合計				D	-	-	-	-	-

※1 評価について

A：目標達成に向け取組が進んでいる又はKPIが前進している

B：目標達成に向け取組の強化が必要又はKPIが後退している

C：方針、具体策等を検討中

D：未着手又はアクションプランの見直しが必要

A	10	19	24	24	23
B	21	14	9	9	10
C	2	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0